



宮原小学校 コミスク通信

令和 4年
7月20日
No.3
学校運営協議会

5・6年生が宮原地域交流協議会の方々と竹灯籠作り

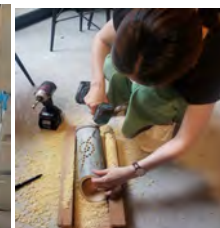


6月28日（火）、5・6年生が宮原地域交流協議会の『あそび-と』の方々に教えていただきながら竹灯籠作りに取り組みました。初めに、『あそび-と』の方々が、実演を交えながら具体的な作製手順を説明してくださり、説明が終わると、各自で竹を選び、5・6年生混合のグループで活動が始まりました。ここから宮原小学校の「教え合い・学び合い」の教育が活かされてくるのです。各グループでは、昨年体験している6年生が先生役になって5年生に教えます。5年生は、普段使い慣れていないノコギリや金づちの扱いが難しく緊張している子もいましたが、6年生に優しく教えてもらって緊張もほぐれ、とても上手に作業を進めていました。学年や男女関係なく、みんな仲良く助け合いながら、思い思いの竹灯籠を完成させることができました。

作業中は、6年生が先輩らしく5年生に優しく教えてあげたり、手助けをしてあげたり…。また、『あそび-と』の皆さんも、あえて手を出さず、困っている子には分かりやすくて確かなアドバイスをしながら、子供たちの頑張りを優しく見守ってくれていました。子供たちにとって、地域の方々の自分たちへの思いを感じ取ることができる貴重な時間であり、とても楽しい思い出になったと思います。



また、7月10日（日）には、宮原小学校横の『宮原さん家』で、竹灯籠作りの住民ワークショップが行われました。親子連れや女性の方も、ノコギリや金づち・ドリルなどの道具を器用に使いながら、工夫を凝らした素敵な竹灯籠を完成させたそうです。



『あそび-と』の皆さん、お忙しい中、竹の切り出しやカット、道具の準備、当日の指導など大変おつかれさまでした。本当にありがとうございました。



3年生 みかんの摘果体験

7月6日（水）、宮原駅近くの宮澤さんのみかん畑で、摘果体験をさせていただきました。例年、3年生は、ふるさと学習の一環で、みかんについての学習も行っていますが摘果体験は初めてだそうです。この日は、県や有田市のみかん課の職員さんや宮原町の農業士の方々が来てくださり、子どもたちの体験をサポートしてくださいました。

初めに、みかん栽培や摘果作業についてのお話を聞かせていただき、その後、畑に移動して摘果体験が始まりました。畑では、農業士の方々が各グループに一人ずつ付いて、実の見分け方やとり方を優しく教えてもらいながらの体験です。広い畑には、みかんの木がたくさん植えられていて、どの木にも小さい実がたくさんついていました。そこから、傷のあるもの、変色したもの、密集しすぎているものを、よく見て摘果しました。どの実を取っていいのかわからない子も多く、農業士の方々が笑顔で優しく教えてくれていました。途中で、摘果した実を半分に切って、果汁を飲ましてもらおうと、「すっぱーい」と顔をゆがめる子や、「おいしい」と笑顔の子もいて、大盛り上がりでした。

体験を通して、地域の産物が生産される過程や生産者の努力を理解することにより、食べ物や生産者への感謝の気持ちや地域産物への愛着を感じる心を育てていってほしいと思います。





5年生 ジャガイモの収穫

7月8日（金）、5年生が“えいようまんたん畑”で育てていたじゃがいもの収穫を行いました。3月中旬に、『パワフルおいやんクラブ』の方々に教えていただきながら、種イモの植え付けをして、草抜きや芽かき、土寄せなどを行い、収穫できる日を楽しみにしていました。

この日も、朝早くからおいやんクラブの方々がきてくださり、お手伝いいただきながら収穫をしました。茎ごと引き抜いたり、土の中を探ったりすると、大きいじゃがいも、小さいじゃがいも、虫に食い荒らされたじゃがいもが姿を見せ、たくさんのじゃがいもを収穫することができました。

掘り出したじゃがいもを手し、友達と見せ合ったり、「これ、でかー」、「すごーい」など、あちこちで歓声が上がり、みんな笑顔で、楽しそうに収穫する様子が見られました。これほど立派に成長したじゃがいもを収穫できたのは、『パワフルおいやんクラブ』の方々のお力添えがあったからだと思います。本当にありがとうございました。大根づくりの際にも、ご指導よろしくお願いします。



前回の『宮原小学校コムスク通信』で、6年生が、松本智之さんのいちごハウスで行った「いちご狩り体験」の様子を紹介させていただきました。体験から1ヶ月あまり経っているのですが、体験後に6年生の子どもたちが書いたふり（感想）を紹介させていただきます。（前回は紙面の都合で、掲載できませんでした。）

子どもたちのふり（感想）より 抜粋

- * いちごを育てるのに農薬を使っていないと聞いておどろきました。いちご狩り体験の時に味わってみると、とても甘くてジューシーでした。体に良くて、美味しいいちごが育てられるのは、松本さんの心がこもっているからだと思いました。農家の方に感謝しながら、果物や野菜をあげて、魅力を伝えていきたいです。
- * 松本さんが心をこめて、一つ一つ丁寧に作っている気持ちが伝わりました。また、あんなに広いハウスで多くのいちごを一つ一つ丁寧に育てていると思ったら、たいへんだらうなと思いました。教えていただいた事をもとに、和歌山のいちごや果物について理解を深めたいと思います。
- * 「和歌山県のいちごのよさ、特ちょうを広めてほしい」と言っていたことに共感しました。
- * 無農薬なのに、甘くて大きいいちごでおどろきました。果物を食べる時は、生産者の方の思いを考えながら食べたいです。
- * 話を聞いて、いちごを思う気持ちやこだわりを知ることができました。今回の体験を忘れずに、こんなにがんばってくれている人がいると覚えておきたいです。
- * 農薬を使っていないのに、虫に食べられているいちごが少なく、すごいと思いました。
- * イチゴを食べている時、松本さんの思いを感じながら食べることができました。また、イチゴが甘くておいしいのも松本さんが心をこめて作ってきたからだだと思います。
- * 松本さんの果物に対する愛情や思いがよく伝わりました。今日は心に残る思い出の一つになりました。まりひめという種類を全国の人に知ってもらい、食べてもらいたいと思いました。
- * 事前に聞いていた松本さんのいちご栽培に対する思いの、「おいしいと言ってもらえるとうれしい。」とおっしゃっていたことを意識して、「おいしい。」と言おうと思っていたけれど、いちごがおいしくて、自然に、「おいしい。」と言っていました。
- * 松本さんのイチゴを食べていると、安心安全なイチゴを食べたいという思いがすごく伝わってきました。
- * 大きいのもあれば小さいのもあったけど、どのいちごも農家さんが一生懸命作ってくれたので、あまくておいしかったです。

